



平成 30 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社ナガオカ
代表者名 代表取締役社長 梅津 泰久
(コード:6239、東証 J A S D A Q)
問合せ先 取締役管理本部長 楯本 智也
(TEL. 0725-21-5750)

第 2 四半期 (累計) 連結業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 8 月 10 日に公表しました平成 30 年 6 月期 第 2 四半期 (累計) 連結業績予想の修正を行うとともに、平成 30 年 6 月期 第 2 四半期決算において、過年度決算訂正関連費用 (特別損失) を計上することといたしましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 30 年 6 月期 第 2 四半期 (累計) 連結業績予想値の修正

(平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,198	97	108	74	21.25
今回修正予想 (B)	1,987	211	322	141	40.50
増減額 (B-A)	△210	114	213	67	
増減率 (%)	△9.6	117.9	196.6	90.0	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 6 月期 第 2 四半期)	1,213	△220	△165	△207	△100.06

(2) 修正の理由

当第 2 四半期累計期間の連結売上高は、水関連事業において予定案件の受注が遅れている影響で当初の予想を下回る見込みであります。エネルギー関連事業は予想どおりの見込みであり、前回発表予想 2,198 百万円に対し、210 百万円減の 1,987 百万円となる見込みです。

営業利益につきましては、国内工場の移転により固定費の削減を実現したこと、大連工場では高い稼働が維持できたことに加え、製作中の案件に係るコスト削減を徹底して実行した

ことにより、当第2四半期連結累計期間における製造原価を大幅に低減することができました。これにより、前回発表予想97百万円に対し、114百万円増の211百万円となる見込みです。

経常利益につきましては、営業利益の改善に加え、保険解約益の計上及び為替差益の計上等により、前回発表予想108百万円に対し、213百万円増の322百万円となる見込みです。

親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、後述の過年度決算訂正関連費用を計上したこと及び非支配株主に帰属する四半期純利益が増加したことにより、前回発表予想74百万円に対し、67百万円増の141百万円となる見込みです。

なお、本日付で別途開示しました「過年度の決算処理に係る調査委員会の設置及び今後の方針に関するお知らせ」に記載したとおり、過年度決算の訂正に伴う当期連結業績への影響は軽微であり、現時点での影響見込み額を織り込んでおります。

また、平成29年8月10日に公表いたしました平成30年6月期の通期連結業績予想につきましては、変更はありません。今後、通期連結業績予想に修正の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 過年度決算訂正関連費用（特別損失）の内容

当社は、本日付で開示しました「過年度の決算処理に係る調査委員会の設置及び今後の方針に関するお知らせ」に記載のとおり、平成27年6月期の決算において誤った会計処理が行われていたとの疑義が生じており、当該会計処理に関する事実関係を調査するため、平成29年12月15日に社内調査委員会を設置し、外部の専門家の協力を得て、調査を行っております。社内調査委員会において調査中ではありますが、現在のところ過年度決算を訂正する方向で進めております。

本件の対応に伴い、外部委託費用及び会計監査人の訂正監査費用等が発生するため、平成30年6月期第2四半期において、当該費用38百万円を過年度決算訂正関連費用（特別損失）として計上いたします。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予測と大きく異なる可能性があります。

以上